

伊勢原市レスパイトサービス事業について

神奈川県 伊勢原市
社会福祉法人 緑友会
みどり園
支援課長 平田 栄孝

1 はじめに

当施設は、昭和 55 年 4 月 1 日に知的障害者入所施設として開所している。長きにわたり本体事業の入所事業をメインに行っているが、年々地域からの利用等のニーズも高くなってきていた現状も見られている。その後、平成 13 年度より、伊勢原市の委託を受けて、夏休み期間のレスパイトサービス事業の運営をスタートしている。現在まで伊勢原養護学校に通学している障害児の方の利用も多く、伊勢原養護学校との連携も年々深まっている状況である。何度も利用される方が多い状況の為現在は、冬休み・春休みも期間限定ではあるが、レスパイト事業を運営する状況となっている。

レスパイトサービスとは、障害児者を持つ親・家族を一時的に、一定の期間、その障害児者の介護から解放する事によって、日頃の心身の疲れを回復し、ほっと一息つけるようにする支援である。

2 具体的な取り組み内容

もともとの伊勢原市レスパイトサービス事業は、平成 10 年から平成 12 年までの 3 年間で、伊勢原市主体で行っていた事業である。夏休み期間の知的障害児の家庭での過ごし方が、学校に通学している時に比べると充足されていない状況であり、また長期休みの場合母親が子供の養育でかかりきりとなり、普段の生活が保てない状態が続いてしまう為、伊勢原市と親の会と伊勢原養護の先生等が連携してレスパイト事業を運営していた。臨時職員を採用し、マンツーマン体制で支援を行っていたが、利用者のニーズが高くなってきており、限界な状況も見られていた。利用者のニーズも高くなってきた現状で、平成 13 年 7 月 20 日より、当施設でのレスパイト事業を夏休み期間全日・42 日間を受入れする形でスタートしている。利用出来る時間は、9:00~16:00 の最大 7 時間であり、定員は 1 日最大 13 名まで利用可能となっている。プログラム内容は、プールでの活動と室内活動等を中心に行われている。利用者一人に対して、臨時職員 1 名を配置するマンツーマン対応が、レスパイトサービスの基盤を支えている。マンツーマン対応の為、初めて利用されるご家族の方にも、安心してレスパイトサービスの利用が行える事も、メリットの 1 つとなっている。

平成 24 年度より、サービスの充実をより一層高める為に、東京にある障害児の運動教室を運営している事業所と連携して、室内活動のプログラムの強化を行っている。ストレッチ・バランス・ラン・縄跳び・ボール運動等を中心に行っており、利用者が楽しんで参加出来るよう環境設定にも配慮している。

年齢層も幅広い為、環境設定には配慮しながら支援している。13 名の利用者が一堂に会すると、スペース的にも限界が生じてしまう事もある。当施設以外のレスパイト会場として、市内の小学

校の協力もあり、平日は小学校の教室を借りて、レスパイト事業を運営している。今後のレスパイト事業の展開としては、夏休み期間のより多くを市内小学校の教室を借りて、障害児の運動教室のインストラクターの協力を全面的に受けられるよう連携を図っていく予定である。

3 考察

夏休み期間中のレスパイトサービスは、保護者の方と利用者の方にとって必要不可欠なものであると認識している。利用される方々が、毎日充実出来るプログラムを提供する事が大切である。

現在では、近隣の市町村もレスパイトサービス事業を展開されているが、平成13年当時は先駆的な取り組みとして、なおかつ学生を中心に育成しながら行う事業は他にもモデルになる事業がない中、施設職員・学生が連携を図り独自に試行錯誤しながらサービス内容の提案を行い、より良いサービスが提供出来るよう取り組んだ。その結果、地域にも施設としての機能を発揮し地域貢献に繋がって、当施設のサービス向上にも多大な影響を与える事となった。

4 おわりに

レスパイト事業を運営した平成13年当時、本体事業の入所事業とレスパイトサービス事業との両立は難しい状況であった。障害児との関わりも少ない状況の中で、日々職員間で話し合いを行いどのようなサービスが本当に必要なのか、試行錯誤をしながら検討を重ね支援してきた。平成13年から現在まで、500名以上の利用者がレスパイトサービス事業を利用されている。その中で、日々の成長のお手伝いが少しでも出来ればと、一緒に活動を行ってきた。平成13年当時、小学生だったAさんも現在二十歳を超え、通所でのサービスを利用しながら、レスパイトサービスも継続して利用されている。Aさんの場を和ます雰囲気は、支援者の心に響き力を注いでくれる存在である。

当施設の利用者方針に、「共に生きる」「共に歩む」というものがある。Aさんのように出会ってから13年の歳月が流れている方も多し中、今後も共に生き・共に歩いていくのである。これからも利用者の交流・共感・体験を柱に感性の豊かさを求めたサービスメニューの提供に努め、利用者・ご家族とのより良き出会いの場となれるよう取り組んで行きたいと思う。